



# 南浦和中だより



第 6 号

平成 30 年 9 月 28 日(金)

さいたま市立南浦和中学校

さいたま市南区辻 6-1-33

TEL 048-863-0753

さわやか相談室 直通

TEL 048-837-5909

《学校教育目標》日に新た 心豊かに たくましく



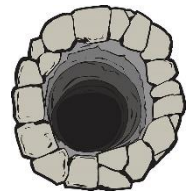
## 「一尺の井戸の教え」

校長 益子 慶次

予定していた9月15日の体育祭、前日から雨が降ったりやんだり、雨雲レーダーと戦いながら当日の朝もぎりぎりまで判定に困ったのですが、やはり生徒にとって雨の日ではない最高の舞台で行おうということで、18日(火)に延期しました。当日は、秋晴れの最高の天気のもと、無事行うことができました。平日にもかかわらず、多くの御来賓、地域の皆様、御家族の皆様にご来校いただき、大変温かい声援や励ましの言葉をいただきましたことに、心より感謝申し上げます。生徒たちも、最初の入場行進からすべての演技をすべての生徒が真剣に行い、まさに3年生がリーダーシップをとってくれた感動の体育祭となりました。当日だけでなく、予行や準備も常に最高のお手本を示してくれた3年生、本当に誇らしく思います。10月には合唱コンクールがあります。今回の教訓を生かし頑張っている姿を、また楽しみたいと思います。

さて、今回は「一尺の井戸」のお話を紹介します。これは、ある地域の人々に昔から伝えられてきた教訓です。その地域は、高低二つの台地が広がっており、もともと水の少ない地域でした。灌漑(かんがい)に必要な水を十分に手に入れることができず、水田の面積もわずかで、質も悪かったそうです。そして、大半の地域では、地下水面がおおむね10メートル以上の深さにあります。このように地下水面が深いことが、このあたりの開発が遅れた大きな原因だったのでしょうか。そのため、井戸を掘るといことは、当時の技術や経済の上から全く困難だったのです。せっかく開墾しても、2キロの道のりを水汲みしなければならなかったため、脱落していった人が多くいたそうです。そのうえ、冬から春先にかけては、台地の上を北西の季節風が吹きまわります。作物は風に吹き飛ばされ、風の強いときは畑で作業するのさえ困難だったようです。

それでも、どの農家も井戸を掘って水を確保する努力を一生懸命してきました。井戸水が出るか出ないかは農家にとって死活問題でした。それだけに、どこの農家でも井戸掘りに必死でした。いくら掘っても水が出ないところもあったり、そのため一家離散してしまった家もあったそうです。数々の苦心と多くの人たちの努力によって、困難を極めた畑地の開墾もしだいに地につき、その面積は増加していったそうです。このような生活の中から人々の間に、先祖代々受け継がれてきたのが、あと一尺(約30cm)も掘り進めば地下水にぶつかるかもしれないのに、あと一尺のところまで努力をあきらめてしまったら、今までの苦労が全部無駄になってしまい、何もしなかったのと同じになってしまうという『一尺の井戸で泣きを見るぞ』という教訓でした。



昔から農家の生活は厳しく、ともすると苦しさの余り心がくじけて、苦しさを避けて通ろうとすることが何回もありましたが、そんな時『一尺の井戸』の教訓を思い出して、歯を食いしばってきたのでした。まさに、当時の農家の人々の努力、粘り強さをひしひしと感じます。

今の私たちの生活の中にも、これと同じことがないでしょうか。生活が豊かになって、欲しいものが何でも手に入る、そんな生活に慣れきってしまって、努力することを忘れてしまった人がいたとしたら、困ったことだと思います。試験勉強も運動も同じです。精一杯勉強や練習をして、残念ながらダメだったとしても、その原因はあと少しの努力を怠ったからかもしれません。あと一尺の努力なのです。お互い頑張りましょう。

9月26日(水)から陸上部を皮切りに「さいたま市中学校新人体育大会」が始まっています。3年生からバトンを引き継ぎ、新チーム最初の公式戦です。もし弱い心が頭を持ち上げてきたら『一尺の井戸』を思い出し頑張りぬいてください。保護者の皆様には、ぜひ、生徒たちの一生懸命な姿を見に、会場へ足を運んでいただき、温かい声援を送ってくださいますよう、よろしくお願いいたします。